

独占

スクープ

現代の奇病

# アリ病の恐怖

◎「劇症型急性アリ飼育症候群」という病名を聞いたことがあるだろうか？ 潜在的に進行し、まだ社会現象化はしていないこの病気。先月開催された神経精神学会で「アリ病に関する考察」なる報告がなされた。報告者は筑波医科大学の有永呂久助教授と筑波アリ類研究所の安武八所長である。ウィルス起因説を唱えているが、毒物中毒の可能性も示唆している。私たち調査班は、500人にもものぼる感染者を確認した。そして、3人の劇症型患者に取材ができた。まずは、その報告レポートである。

まさか、こんなことが...

この恐怖はあなたの身近にも  
忍び寄っている...

ひとり暮らしの部屋にこれだけのアリが...

ケース① アリが知りたい！  
外山志和さん（仮名28才女性）

アリの事なら何でも知りたいです。もう夢中って感じですか。えー、病気？ そんなことはないですよ。飼っていると言えるほどではないですから。全然、うまく飼えないんですよ。へへへ...

ケース② 1日5時間  
黒柳有太さん（仮名38才男性）

いろいろな生物を飼ったり観察してきましたが、こんなに面白いのは初めてですね。どこにでもいますしね。今まで手を出さなかったのが不思議なくらいです。病気？ ふーん、なるほど。それは面白いですね。ああ、煙草も依存

症で病気？なるほど、それなら私も病気だ、ハハハ。

ケース③ 採りたい！

吾下安利さん（仮名34才男性）

はい、もう完全に病気ですね。中毒症状もありますね。こんなに面白いとはね。仕事

との両立はできていますが、家庭の崩壊は近いかもしれません。でも、やめられませんね。今日も今から、フッフ。

あまり自覚症状はないよ  
うだが、有永助教授は「よくある話です。体に変調がなければ病気とすぐ認める人は少ないですよ。あの3名は、明確に感染していません。しかも劇症タイプです。治療を始めれば徐々に自覚するでしょう」という自覚症状の不明瞭が、今までアリ病が社会認識されなかつた大きな要因のようだ。